日々の注意喚起が安全意識の高い従業員をつくる

（釧路市）向陽建設株式会社

従業員数：14名
車両台数：13台

向陽建設株式会社は、１９６５年に設立して今年で61年目となる建設業の会社です。住宅建設やリフォームのほか、公営住宅や学校施設などの公共建築を手掛けています。

また、釧路地区の発展のため、道路や下水道の工事といった地域のインフラ構築にも全社一丸となって取り組んでいます。令和7年に北海道警察等から交通安全優良事業所として表彰されました。

毎月の全従業員参加の会合を自身の運転を顧みる場とする

当社の安全運転管理において長年取り組んでいるのが、従業員への安全運転教育です。おかげさまで、安全意識が高い従業員が大変多いです。

管理者が中心となって日々の呼び掛けを行うほか、毎月全従業員が集まる会合を開いています。

会合では、まず社長から従業員に交通ルールの遵守をテーマとした話をして、従業員からも交通に関する報告をしてもらっています。何でも話せる雰囲気の中で自身の交通違反やヒヤリ体験などを話すことは、本人だけでなく他の従業員にも交通安全について考えるきっかけとなります。このように安全意識を高める場をつくることに重きを置いています。

また、春と秋には協力会社を含めた50～60人が参加する安全大会を開催しています。春は労災を、秋は冬季の事故をテーマにしています。

秋の安全大会では、釧路警察署の交通課の方を招いて、地域の事故発生状況や冬季の事故などについて講話をしていただいています。とくに冬季はスリップ事故が多くなってくるので、それに向けて秋のうちに学ぶことができ好評です。また、講話の中で車同士の衝突や、渡ってくる歩行者に気づかずに衝突するといったドライブレコーダーの映像を流していただくことがあるのですが、従業員の反応を見ていると、かなりの安全意識を高める効果があると感じました。

チャレンジ・セーフティラリーで安全への意識を高める

当社がとくに力を入れている安全活動は、一定期間の無事故・無違反を目指す交通安全運動「チャレンジ・セーフティラリー北海道」で、20年以上前から参加しています。

参加のきっかけは従業員の交通事故でした。朝、従業員の親御様から会社に電話があり、友人の運転していた車の助手席に乗っていて、単独事故で亡くなったとの報告を受けました。

あの日のことは忘れられません。それ以降、社内での交通安全への思いが高まり、翌年からチームを組んでセーフティラリーに挑戦するようになりました。

参加当初は、違反などで達成できないチームもありました。その後、達成できたチームには会社から賞品（商品券）を贈呈するようにしており、今ではほぼ全チームが達成しています。

賞品に大きなお金はかけられませんが、

少しでも従業員の安全へのモチベーションになっているのであれば、今後も続けていきたいと思っています。

安全運転につなげるための車両管理

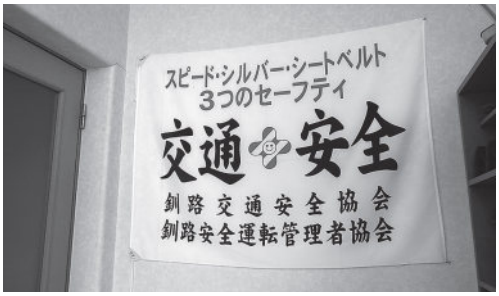
車両は営業用の乗用車のほか、運搬車、軽トラック、軽ダンプ等を使用しており、主な用途は現場への移動です。釧路市近郊や札幌を中心に運行しています。

日々の車両点検は車両の運転者が責任を持って行います。車両に不具合が生じたときはすぐに管理者に報告して整備工場で状態を確認してもらっています。

歩行者や野生動物との事故防止のため注意喚起を日々行う

従業員に日頃から注意喚起しているこ

▲令和７年度交通安全優良事業所として表彰を受けた



▲社内の目立つ位置に掲示されたフラッグ

▲社屋入口の掲示物で交通安全を啓発

▲朝礼の最後に交通安全祈願を行う

とは、歩行者（高齢者、こども）との事故です。

高齢者は、横断歩道外でも安全確認も不十分な状態で平気で道路を渡ること、こどもは遊びに夢中で飛び出してくること、新入学の時期はとくに気をつけることなどを話しています。

歩行者との事故以外で年中注意喚起をしているのがエゾシカとの事故です。当社の運行エリアには山道が多く、とくに薄暮時以降はシカが見えにくくなるため、慎重に走行するように呼び掛けています。以前、運転中にシカと衝突した従業員がいたことから、事故が起きた場合は必ず連絡し、指示を仰ぐという体制を整えました。

従業員の意識の向上が無事故につながる

当社では、長年さまざまな取組みを行ってきたこともあり、安全意識の高い従業員が増えました。本当に従業員一人ひとりの努力の賜物だと感じています。

管理者と社長が協力して、いつもさりげない日常で従業員に安全運転について呼び掛けてきました。毎日のことなので、従業員も言われ慣れするのではないかと心配した時期もありましたが、やはり毎日呼び掛けてきたことが社内全体の安全意識向上につながったと今では確信しています。

今後も無事故を目標に指導に取り組んでまいります。